

# 大岡の風 5 月



令和 6 年 4 月 30 日  
横浜市立大岡小学校  
TEL (711) 0818  
FAX (713) 3563

## 満開で始まった 151 年目の春

副校長 久保 壮史

この度、大岡小学校に参りました久保壮史と申します。創立 150 年という節目を超えて歴史を重ねる大岡小学校に着任することができ、大変うれしく思っています。どうぞよろしく願いいたします。

今年の桜は、例年よりも多くの人待ち望んでいたのではないかと思います。それは、予想の時期を過ぎての開花だったからというだけではなく、長いコロナ禍が明け、様々な制約を解かれた中で迎えられた、久しぶりの春だったからなのだと思います。

4 月 8 日。大岡川のほとりに桜が咲き乱れる美しい景色の中で、大きなランドセルを背にした初々しい 1 年生 106 名を迎えることができました。そして、着任した私にとって、大岡小学校の第一印象はこの入学式の晴れやかな光景と重なりました。

学校生活が始まり、まず感じたことは、子どもたちの快活さです。元気なあいさつや表情豊かな受け答えから、これまでの学校生活の中で積み重ねられてきた学びの成果を感じ取ることができました。また、昇降口を入ってすぐの吹き抜けからは、何段ものひな壇や太陽の光が差し込む天窓、造作の施された図書館の入り口などを見渡すことができ、このようなユニークな校舎は子どもたちが生き生きと学習に取り組める絶好の環境だと思いました。

さらに、私の目に留まったのは、校内や各教室に掲げられている「大岡っ子の基」です。ここには、「自分たちの手で大岡小学校を創り上げていこう」と書かれています。生活科や総合的な学習の時間に力を入れていることが本校の特色ですが、きっとこれらの学習活動の中で子どもたちは自ら考え、自ら行動し、この「大岡っ子の基」を実現していくのだと思います。これから各学級で本格的に始まる多種多様な学習の営みを、私はしっかりと見取りつつ、見守っていきたいと思います。

さて、ちょうどコロナ禍に差し掛かる頃、私は台湾の日本人学校で学級担任として仕事をしていました。世界中に正体のわからない感染症が蔓延するという未曾有の危機の中で、不安を抱えながら帰国する際に、現地の方からいただいた印象に残る言葉があります。

「十年樹木 百年樹人」

この言葉は、「1 年先のことを考えるなら、穀物を育てればよい。十年先のことを考えるなら、樹木を育てるとよい。しかし遠い未来（百年先）まで考えるなら、まずは人を育てなければならない。」ということ伝えてあります。

151 年目を迎えた大岡小学校がこれまで積み重ねてきた長い歴史と、大岡川や商店街に囲まれた豊かな学びの環境の中で、私はこの言葉をいつも心に留め、じっくりと子どもたちと向き合い、どのような課題にも一つひとつ丁寧に対応し、「大岡っ子の基」の実現に向けて少しでもお役に立てればと考えています。そして大岡小を、これから先もずっと地域に愛される学校にしていきたいと思えます。

皆様におかれましては、引き続き本校の教育にお力添えの程、どうぞよろしく願いいたします。